

バーボンだけさ
俺の手に残ったものは……
いつもと同じだよ

愛していたぜ……けだるい紫煙の中で私立探偵マールロウはもがいた！
次々と起る殺人事件を背景に人間のやさしさをきらめかせるチャンドラー文学の傑作、最新の映画化！

Farewell
My
Lovely

いとひと
さらば愛しき女よ

〈カラー作品〉

原作
レイモンド・チャンドラー
(早川書房刊)

ユナイテッド映画
United Artists
A Trans America Company

ロバート・ミッチャム/シャーロット・ランプリング/ジョン・アイアランド/監督ディック・リチャーズ/脚本デイビッド・Z・グッドマン/音楽デイビッド・シャイア/サントラ盤(ユナイテッド・レコード)



Farewell My Lovely

いとひと おは愛しき女よ

＜カラー作品＞EK=LTCプロ作品 ユナイト映画 United Artists
A Transamerica Company

■キャスト■

フィリップ・マーロウ	ロバート・ミッチャム
ヘレン・グレイル	シャーロット・ランプリング
ナルティ	ジョン・アイアランド
ジェシー・フロリアン	シルビア・マイルズ
ブルネット	アンソニー・ザービー
ムース・マロイ	ジャック・オハローラン

■スタッフ■

監督	ディック・リチャーズ
総指揮	エリオット・カストナー
脚本	デイビッド・Z・グッドマン
原作	レイモンド・チャンドラー
撮影	ジョン・A・アロンゾ
音楽	デイビッド・シャイ

◆完璧に再現されたチャンドラーの世界！

女の名は——ベルマ・バレント。6フィート6インチの大男ムース・マロイの奇妙な依頼を受けた探偵マーロウが、紫煙けぶるロス市に幻の女を追いつめる。錯綜した人間ジャングルをくぐり抜け、核心に踏み込んだマーロウがそこに見たものは、運命のしがらみから脱け出せなかった男と…女の…地獄の歲月だった——！

米ハードボイルド文学の領袖レイモンド・チャンドラーが、オイルとアスファルトの中に創造したタフガイ探偵フィリップ・マーロウ。これはシリーズ不朽の傑作として知られる「さらば愛しき女よ」の三度目の映画化である。

監督は「男の出発」「ブルジョーズ・ジャーニー」を発表して、商業写真家から鮮やかな転身を遂げた鬼才ディック・リチャーズ。主演のロバート・ミッチャム（「ザ・ヤクザ」とシャーロット・ランプリング（「愛の嵐」）が、「二つ数えろ」のボガート・バコールの名コンビを凌ぐムードを発散、全米マスコミ・ファンを熱狂させれば、撮影・音楽・製作デザイン等各パートもそれぞれ息の合った仕事で懐しの40年代を再現。折りからのノスタルジー・ブームの真只中、カリフォルニア・ハードボイルドのブルージーな世界をもの見事に醸成した傑作ムード・ミステリーだ。

◆ストーリー

ロサンゼルス一九四〇年。ヤンキースのデイマジオが56ゲーム連続ヒットの快記録を続け、ヨーロッパではヒトラーがロシア進攻を開始し、砂糖1ポンドの卸し価格が6セントに高騰していた……。

家出娘捜しを一件落着した私立探偵フィリップ・マーロウが、雲をつくような大男ムース・マロイのいわくありげな依頼を受けたのはそんな時だった。

「俺の可愛いベルマを捜してくれ」かつて銀行強盗のヤマをとみに踏み、以来六年間音信不通の「恋人」の行方を突きとめたいという。唐突な申し出に一瞬たじろいだものの、いまのマーロウには仕事がないよりはましだった。しかし、突然通りの車の中から二人を目がけ何者が発砲。顔色一つ変えず平然としたマロイの態度に、マーロウはさらに好奇心をつのらせた。

二人は先ず、ベルマがその昔歌手として出演していた「フロリアンの店」を当たった。しかし、いまは黒人専用バーになってしまった店で、マロイは力余ってバーテンを絞め殺してしまう。マーロウは一旦彼を逃がすことにした。独自の調査を開始するハメになったマーロウは、電話帳からフロリアンでバンドマンをやっていたトミー・レイを突きとめた。彼の口から、フロリアンの持主の未亡人ジェシーの

存在が浮かんだ。郊外の一軒家で一人暮しの未亡人。アル中で過去の華やかさに浸る彼女からは当然有効な手がかりは得られなかった。オフィスに戻ったマーロウをジゴロ風の男リンゼイ・マリオが待っていた。ある有力者が盗まれた宝石の回収現場に、ボディガードとして立ち合っただけという。私立探偵独自の臭覚でキナ臭いものを感じたものの、マーロウは引き受けた。

夜。取引相手を待つマーロウは後頭部を突然何者かに殴られた。気がついた時、マリオの血まみれの死体が傍らに転っていた。

宝石の持主として、市の実力者ロックリッジ・グレイルの名が浮かんだ。その豪壮な邸宅を訪ねたマーロウは、そこで目のさめるようなグラマーと出逢った。ヘレン・グレイル。親子ほども年の違うロックリッジの若妻だ。グレイル夫人は艶然とした物腰で、宝石盗難の事実を否定した。

マロイからの連絡を期待しながらオフィスへ戻ったマーロウを、二、三人の暴漢が待ち構えていた。気がついたところは悪名高き女郎屋アムサーの店だった。マーロウを羽がいにじめにし、幻覚注射を打ち、マロイの居所の自白を迫る怪女アムサー。一室に監禁されたマーロウは、そこにトミー・レイの惨死体を見た。ふらつく体をおして脱出を試みるマーロウ。朦朧とした意識の中に、彼は事件の輪郭をつかみ始めていた……。

